



音楽と映像による坂本九魅力発信事業

坂本九と岡本太郎 大阪万博の夢 トーク&コンサート

日 時

2019年 7月 20日(土)
13時30分開演

場 所

川崎市岡本太郎美術館展示室

出 演

歌:舞坂ゆき子、ピアノ:武永京子

ナビゲーター:佐藤利明

観覧方法

当日直接ご来場ください。(先着順)

椅子は100席ほど用意しています。

料 金

観覧料が必要です。

【岡本太郎美術館観覧料】

一般 1000円(800円)、

高・大学生・65歳以上 800円(640円)、

中学生以下無料 ()内団体料金



舞坂ゆき子さん

©坂本九音楽事務所

佐藤利明さん

川崎市では、本市出身で今なお愛される「坂本九」ちゃんの魅力を、「音楽」と「映像」で発信することにより、都市イメージの向上とシビックプライドの醸成を図る取組を行っています。

九ちゃんは、岡本太郎とも親交があり、また、2人は、1970年に開催された「大阪万博」で、歌と美術で日本を世界に発信しています。

今年度は、川崎市岡本太郎美術館が開館20周年を迎えることから、関連イベントとして、太郎の作品に囲まれた空間で、世界に誇る二人の交流を大阪万博の時代とともに振り返るトークショーと、九ちゃんも歌った万博のテーマソングや名曲のミニコンサートを開催します。また、ガイダンスホールでは、「坂本九特別番組(2011年11月27日にtvkで放送)」を上映します。



主催:川崎市 協力:川崎市岡本太郎美術館

後援:「音楽のまち・かわさき」推進協議会 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム

お問い合わせ:川崎市市民文化局市民文化振興室 TEL.044-200-2433



坂本九と岡本太郎～大阪万博の夢～トーク&コンサート

九ちゃんと川崎

「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」「明日があるさ」など数多くのヒット曲を生んだ坂本九さんは、川崎市出身です。

ロカビリー歌手としてデビューし、映画や舞台俳優、テレビ番組の司会など、その活動は多岐にわたりました。なかでも、1961(昭和36)年の「上を向いて歩こう」は、日本国外でも大ヒットし、2年後にはSUKIYAKIというタイトルで、アメリカで最も権威のある“Billboard Hot 100”的3週連続1位を獲得しました。

今なお、色あせることのない坂本九さんの多彩な魅力を多くの人に伝えることで、素晴らしいアーティストを育んだ「音楽のまち・かわさき」「映像のまち・かわさき」を広く発信します。



©坂本九音楽事務所

岡本太郎さんってどんなん?



「芸術は爆発だ！」

岡本太郎さんの有名なセリフです。

太郎さんは、1911年に岡本一平、かの子の長

男として川崎市高津区で生まれた芸術家です。有名な「太陽の塔」は、太郎さんが1970年の日本万国博覧会のときにつくったものです。太郎さんは1996年に84歳で亡くなるまで、絵や彫刻をつくり、生活の中で使える椅子をデザインしたり、本を書いたり、たくさんものを生み出しました。実は19才のときから約10年間、パリで勉強もしていました。そんな太郎さんがつくった作品が、川崎市岡本太郎美術館にはなんと約1800点も保管されています。太郎さんのエネルギーあふれる作品を、ぜひ身体を感じて楽しんでください。(『岡本太郎美術館で遊ぶ!』ガイドマップ)より

トークと歌

舞坂 ゆき子 プロフィール

1996年～2002年に宝塚歌劇団雪組に在籍し『エリザベート』『ノバボサノバ』『アンナカラーニナ』など数々の舞台を娘役として踏む。宝塚歌劇団在籍中の2000年には、父である故坂本九との夢のデュエット『SUKIYAKI 2000』を東芝EMIよりリリース。2002年に退団後は、数多くのドラマに出演。



©坂本九音楽事務所

2009年に、幼い頃からの夢であった動物との触れ合いを通じた癒しの時間を提供するドッグライフコンシェルジュの活動を開始。その中で発表した、動物愛護をテーマにした楽曲「ボクものがたり」が話題となる。

2010年にCDをリリース。2012年、絵本家いもとようこ氏がラジオでOAを聞いた事がきっかけとなり「ボクものがたり」を原案とした絵本が出版された。

ドッグウェアブランド『chu♥che(クーチェ)』のプロデューサー、デザイナーとしても活躍中。

ナビゲーター

佐藤 利明 プロフィール



構成作家・ラジオ・パーソナリティー。 娯楽映画研究家として、新聞連載やコラム、CDアルバム、映像ソフトのプロデュースを通して紹介を続けるエンタテイメントの伝道師。CD「坂本九アニバーサリー・ベスト～689コンプリート」DVD「1963上を向いて歩こう」、日活映画DVD「上を向いて歩こう」「ひとりぼっちの二人だが」ライナーノーツ執筆などを手がけてきた。テレビ、ラジオなどで「昭和のエンタテインメント」をテーマに活躍中。音楽プロデューサーとしても活躍。「1969」(Pink Martini&由紀さおり)のスペシャル・アドバイザー。2015年文化放送特別賞受賞。最新著書は『石原裕次郎 昭和太陽伝』(アルファベータブックス)、著書『クレイジー音楽大全 クレイジーキャッツ・サウンド・クロニクル』(シンコーミュージック)、『寅さんのことば 風の吹くまま 気の向くまま』(東京新聞)など多数。

岡本太郎美術館20周年記念展
これまでの企画展みんな見せます!

前期 岡本太郎・縄文から現代へ

2019年7月13日(土)～10月14日(月・祝)

川崎市岡本太郎美術館



交通案内

●小田急線向ヶ丘遊園駅

・南口から徒歩17分

・南口から市バス3分(5番のりば・溝口駅南口行・溝19系統(1時間に1~2本)) 「生田緑地入口」下車、徒歩8分

・南口からタクシー4分(日本民家園前下車)徒歩5分

・北口から小田急バス10分(2番のりば・専修大学行・向10系統(1時間に2~6本)) 終点「専修大学前」下車、生田緑地西口園路(通行可能時間8:00～17:30)を通って徒歩6分

●車利用の場合は、生田緑地東口・西口駐車場(有料)をご利用ください。

川崎市岡本太郎美術館

〒214-0032 川崎市多摩区枡形7-1-5 生田緑地内 TEL.044-900-9898

これまでに開催した企画展を振り返り、展覧会を象徴する代表作品や資料を抽出し展示します。

前期展では、岡本太郎の多面的な活動の足跡と、縄文土器から民族の源流を探るフィールドワークの旅、そして岡本太郎と関わりの深い同時代の作家を紹介します。



岡本太郎撮影《縄文土器》1974年

